

団体名：認定 NPO 法人フードバンク関西

代表者名：浅場 めぐみ 連絡先：0797-34-8330

住所：兵庫県芦屋市呉川町 1-15

事業規模簿：約 200t ボランティアスタッフ数…約 40 名

施設配布先：児童養護施設、障害者共同生活ホーム、母子緊急生活支援施設、炊き出し団体

提供施設数：約 90 施設

主要活動地域：兵庫県南部、大阪市中心部

事業概要

食品関連企業から余剰食品を回収し、生活弱者の自立を支援する社会福祉施設や福祉団体に、これら食品などを無償で分配する事業を行なっている。

ポイント

【定期的な食品の寄付・頻度の多い定期施設配送】

月曜～金曜：コストコを 2 箇所毎日集荷し、施設への隔週配送+定期・不定期商品を毎月 1 回配送しているので、一施設に対して毎月 3, 4 回配送していることになる。

【認定 NPO 法人】

活動自体は、年々増加傾向にあるが、その分助成金、補助金に余り頼らず民間の寄附をベースに活動をしている。

取り組みの経緯

設立のきっかけは、当時芦屋市に在住していた米国人ブライアン・ローレンスさんが、2003 年 4 月にオープンしたコストコホールセールジャパン尼崎から余剰食品の無償提供を受け、大阪市内の ホームレスシェルターとホームレス炊き出しテントに無償で分配する活動を始めたことです。

スタートしてみると、無償提供される食品はとても一人ではさばけないほどの量です。それを知って日本人ボランティア 8 人が活動に参加するとともに、ホームレス支援団体だけでなく、障害者共同生活ホームや母子緊急生活支援組織などにも無償分配するようになりました。

ところが、その年の 8 月にブライアン・ローレンスさんが日本を離れることになりました。そこで日本人ボランティアで協議し、NPO 法人として活動を継続することに決定したのです。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

活動方針

【地産地消の活動】

基本的な方針としては、「地域の余剰品を、地域のボランティアによって、地域の生活弱者に還元し、それらの活動を地域の皆様に支えていただく。」という、規模感、地域拡大は求め過ぎずに地産地消の活動を目指している。

活動事例

【地域の食のセーフティーネット】

地元の行政と地域のセーフティーネットとしての連携が始まり、芦屋市とは芦屋市社会福祉協議会が窓口となった。市から要請を受けた社会福祉協議会が緊急支援を必要とする個人を対象に支援を開始した。

尼崎市では、尼崎市民福祉振興協会を窓口にして、同様の支援が始まっている。加えて、西宮市や伊丹市にも連携体制を敷く準備のため話し合いをしている。今期は、行政側の事業予算に組み入れられなかったが、先行事例として進めた。来期は、事業予算に組み込んでもらえるように働きかけるとのこと。

提携食品企業

・定期：17社、不定期：30社
⇒提供商品郡：調味料・乾物・缶詰・菓子類・チーズ・飲料・防災備蓄品など

成果と課題

【取り扱い高増大による経費の圧迫】

事業収益がない中、前年比の取り扱いが4割程度増加している、それに伴って活動費も増しているが、今期はWAMの助成金の活用と寄附の微増のため収支はマイナスになっていない。ただし、継続的に活動を行うには、事業経費をどうするかは一番の課題である。

継続のために、提供先施設には賛助会員として資金を頂いている。提供企業に対しては、協賛金を求めているが、実績はまだない。

【地域の食のセーフティーネット強化】

2つの市との連携が今年から始まり、他の市とも協議を進め実績作りを目指す。将来的には、行政の生活困窮者向け支援の中に、フードバンク機能を組み入れてもらう意向。そして、可能ならば、委託事業として年間予算を受け、運営の強化に乗り出したいと考える。